

# 【普通作物】の【少雨・干ばつ】対策について <9月>

宮崎県総合農業試験場専門技術センター

## 【普通期水稻】（出穂期～成熟期）

### （1）予想される被害状況

- ① 不稔や登熟不良が発生し、品質低下や減収となる。
- ② ウンカ、紋枯病、いもち病等が多発しやすくなる。

### （2）事前対策

- ① 水系毎に配水計画を定め、効率的に給水する。
- ② ほ場内に通水用の溝やポリチューブ、波板等を設置し効率的に配水する。  
特に出穂期直後は、走り水程度でも給水に努める。
- ③ ウンカ、紋枯病、いもち病の発生に注意し遅れないように防除する。
- ④ 海に近い河川や地下水から給水する場合は、海水の混入に注意する。

### （3）事後対策

- ① 海水の混入があった場合は、真水の給水に努め塩分濃度低下を図る。
- ② 土壌乾燥が続いた後に、急に湛水すると青立ちが発生する場合があるので、間断かん水で管理し徐々に湛水に慣らす。
- ③ 成熟期に達した稲は、速やかに収穫する。

## 【大豆】（開花期～莢肥大期）

### （1）予想される被害状況

- ① 生育が不良となったり、開花や着莢、莢の肥大が悪くなる。
- ② ハスモンヨトウ等の害虫が多発しやすくなる。

### （2）事前対策

- ① 用水路から入水が可能な場合は、畦間に通水する。なお土壌が過湿になると生育に影響を与えるので、速やかに排水する。

### （3）事後対策

- ① カメムシやハスモンヨトウの発生に注意し、遅れないように防除する。

## 【秋ソバ】（播種・生育期～開花始期）

### （１）予想される被害状況

- ① 土壤水分が不足すると発芽不良となる。
- ② 発芽後の生育が不良となる。

### （２）事前対策

- ① 用水路から入水が可能な場合は、土壤水分を適度に高めてから耕耘し、播種作業を行う。  
播種後に畦間に入水を行う場合は、過湿にならないよう注意する。
- ② 雑草が水分を収奪するので、条播きでは早めに除草を行う。
- ③ 播種期の範囲内で降水を待ち播種するが、播種時期の遅れに応じて播種量を多くする。

### （３）事後対策

- ① 発芽不良で欠株が多かった場合は、播種期の範囲内で追播きや再播種を行う。